カベルゴリン、レルゴリクスによるOHSS対策効果　～いかにOHSSを軽減させるか～

生殖補助医療：ARTにおける調節卵巣刺激において、卵巣過剰刺激症候群（OHSS）は、時には重篤な状態を引き起こす可能性のある、注意すべき合併症のひとつです。
妊娠の可能性を高めるため、また将来の二人目の妊娠も見据え、複数の卵子を獲得することを目的とした場合には、程度の差はありますが、OHSS発症は不可避となることも多いのが現状です。
当院では、OHSSの重症化予防、および軽減を目的として、カベルゴリン、レルゴリクスという内服薬を使用しています。今回、その効果について検討し、第66回生殖医学会にて発表しましたので報告いたします。

AMHが5ng/ml以上の卵巣機能が良い症例において、調節卵巣刺激を行い、OHSS予防薬として、
・何も投与しないA群　193周期
・採卵日よりカベルゴリン0.25mgを1日1錠7日間投与したB群　131周期
・採卵日よりカベルゴリンに追加し、レルゴリクス40mgを1日1錠5日間投与したC群　31周期
に分けて検討を行いました。

検討①では、A群、B群、C群におけるOHSSの評価として、
・採卵7日後の卵巣サイズ
・採卵後から月経開始までの日数を検討しました。

＊採卵後に月経が開始するとOHSSは改善してきています。したがって、月経が早く来るということはOHSSの改善が早いということです。

検討②では、レルゴリクスの効果を評価するために、C群における
・採卵2日前・採卵日・採卵7日後の血中ホルモン値（エストラジオール：E2）の変化を検討しました。

＊レルゴリクスは血液中のエストラジオール値（E2）を下げる作用があります。E2が高いとOHSSの重症度が高くなりますので、レルゴリクスでE2を下げることでOHSSの改善を試みます。

また、当院では、採卵前々日の最終的な卵子成熟を目的として投与する薬剤（trigger）としてOHSS対策のために点鼻薬（スプレキュア：GnRH agonist）を使用していますが、症例によっては注射薬（rhCG）を用いることがあります。

そこで検討③として、triggerの違いによる
・血中ホルモン値
・OHSSの評価として、卵巣サイズ、採卵後～月経開始までの日数について検討しました。

＜検討①の結果＞

採卵7日後の卵巣サイズにおいては
A群　37.7mm　B群　42.8mm　C群　41.9mmで、A群と比較しB群で大きい結果でした
採卵から月経開始までの日数においては
A群　9.4±4.6日　B群　8.2±5.3日　C群　6.2±7.5日で、A群よりもB群、更にC群において有意に月経が早く来る結果でした。

＜検討②の結果＞

採卵7日後のE2値は、採卵日のE2と比較し有意に低下しており、レルゴリクスの効果が充分出ていることが分かりました。

採卵7日後のE2値に関しては、
31例中21例は測定下限値の25pg/ml以下でしたが、25以上であった症例は10例で、triggerとして、GnRH agonistを使用した場合は26例中6例、rhCGを使用した場合は5例中4例でした。
また、採卵から月経開始までの日数は、31例中25例は7日以内に発来していましたが、7日以上かかった例は6例で、triggerとして、GnRH agonistを使用した場合は26例中1例のみでしたが、rhCGを使用した場合は5例全例でした。
TriggerにGnRH agonistを用いるか、rhCGを用いるかによって、採卵後のOHSS経過に違いがある可能性があることより、Triggerの違いによる検討を行った結果が検討③です。

＜検討③の結果＞

採卵7日後のLH,E2,P4いずれにおいても、rhCG使用群で有意に高い結果でした。
また採卵から月経開始までの日数も、GnRH agonist投与群では5.4±7.9日でしたが、rhCG投与群では10.4±0.9日と有意に日数がかかる結果でした。

カベルゴリン、レルゴリクスはOHSSの重症化予防、および軽減に有用であり、レルゴリクスを併用したほうが、更なる軽減効果が高いことが分かりました。
レルゴリクスを使用しても、 triggerに、rhCGを使用した場合はOHSS改善に日数がかかるため、レルゴリクスの開始時期や投与期間について検討する必要があると思われました。

今後も、皆さんの大切なデータをしっかりと分析検討を行い、フィードバックすることで、お一人でも良い結果につながるよう治療を進めてまいります。

院長 園田桃代